

- 【目的】 年長クラスの「クラスだより」等と、小学校第一学年のクラスの「学級通信」等の内容を分析し、保育所・幼稚園から小学校への接続・連携の視点からみた家庭との連携のあり方、内容等を明らかにする
- 【主催】 福岡教育大学教育学部・大学院教育学研究科准教授 北野幸子  
[2007-2010 年度文部科学研究費補助金若手研究B「遊びの援助における保育者の専門性の確立：小学校教育との学びの連続を図るために」(研究代表者：北野幸子)の一部として実施するもの]
- 【共催】 宗像市教育委員会
- 【期間】 平成20年度2学期
- 【対象】 ご協力いただける保育所・幼稚園・小学校の、年長クラスおよび第一学年(各園・校1クラスの予定)の保護者向け「クラスだより」「学級通信」等を収集し、その内容を分析する。
- 【成果】 今後の家庭との連携のあり方や幼小連携の促進に有用である

◎子どもにおけるメリット

家庭と園・学校の連携と相互理解の推進により、肯定的人間関係が構築され、子どもにとって園・学校が、家庭と連続性のある居心地の良い場となるとともに、そこでの教育効果の向上が期待できる。

◎園・学校におけるメリット

家庭との連携と学びの連続性という視点で、保幼小のクラスだよりを分析することで、今後の保護者への情報提供のあり方を再考するとともに、園・学校運営における保護者との連携のあり方に有用である。

さらに、幼稚園・保育所と小学校との連携の点からも、互いの現状を知ることができ、接続強化に役立てることができる。特に新幼稚園教育要領や新保育所保育指針では、保育を計画するにあたり特に留意すべき事項として小学校との情報の共有、相互理解が取り上げられており、保育実践の質の向上に有用である。

◎市にとってのメリット

プログラムに基づく施策の推進に役立てることができる

- ① 家庭の教育力向上・強化のため、幼保の園だよりによる啓発・情報提供の充実を図ることができる
- ② 幼保と小の連携・接続の強化のための施策に活用できる
- ③ 家庭への情報提供の方法・内容による影響を知らせることで、園や学校における意識改革及び教育改善に活用できる

- 【調査結果】 調査結果は宗像市教育委員会と北野幸子准教授の両者に帰属する。市教育委員会は、研究結果の報告を受け、小学校幼稚園保育所への周知や今後の施策に活用する。北野准教授においては、3年後に出す科研の報告書に調査結果の一部を掲載する予定。